



会報 安来節

YASU GI BUSHI

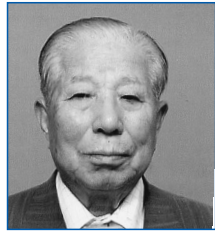
発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町 534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

— 大師範 (17名) —

- 唄増田惣市 (本部道場)
- 絃渡部香寿子 (本部道場)
- 唄青戸富子 (本部道場)
- 絃野村 猛 (出雲)
- 唄小林福徳 (加茂)
- 唄大和末子 (宍道)
- 唄藤井茂男 (仁多)
- 唄杉本美江子 (浜田)
- 唄沖 イツエ (瑞穂)
- 唄大東充明 (尾高)
- 唄福本富江 (鳥取中)
- 唄足立久男 (米子)
- 唄松本千夜子 (江田島能美)
- 唄山本英三 (広島東)
- 唄山本英三 (広島東)
- 踊渡部 章 (伊予道後)
- 絃遠藤 孝 (津山中央)
- 唄三宅なをみ (岡山)

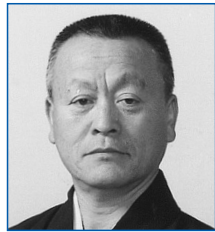
— 准名人 (4名) —



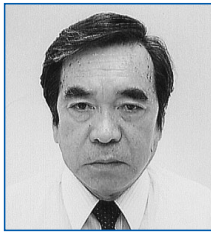
中本 實夫
唄の部 (尾高)



松村 益男
唄の部 (石見)



野坂 亮若
唄の部 (津山中央)



渡部 寿延
絃の部 (神門)

名人



西村 利美
唄の部 (本部道場)

十一月二十一日に開催された安来節保存会代議員会を経て、平成二十一年度の上位昇格者と表彰者が決定致しました。今回、西村 利美さんが、唄の部では二年ぶりの名人となられ、准名人に四名、大師範に十七名の方が昇格されました。おめでとうございます。

来年の一月十日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

会員表彰者

- 土江 時子 (本部道場)
- 佐々木きぬる (本部道場)
- 濱村 一男 (出雲)
- 小笠原義博 (石見)
- 高野 要 (大田)
- 山本 克己 (鹿足)
- 勝部アサノ (加茂)
- 木村久美子 (湖陵)
- 藤原 勇夫 (湖陵)
- 伊藤 里美 (宍道)
- 小沢 静枝 (大社)
- 田中 公子 (那賀)
- 山口 光子 (那賀)
- 川神キミ子 (浜田)
- 石橋 実 (浜田中央)
- 西坂 幸枝 (浜田中央)
- 多々納民恵 (斐川)
- 長崎 友江 (平田)
- 山本 勝 (益田)
- 河野 文雄 (益美)
- 吉田 美江 (松江)
- 喜多 孝治 (松江)
- 中山 英子 (瑞穂)
- 大西 由紘 (尾高)
- 真野 和也 (尾高)
- 吉持 誠 (境港東)
- 福田 五月 (津ノ井)
- 斉尾 成子 (東伯)
- 島木 寿々子 (東伯)
- 石橋 實 (鳥取)
- 山下 満 (鳥取)
- 奥村 明 (鳥取中)
- 山口 芳枝 (米子)
- 谷本ヤス子 (江田島能美)
- 谷川 泰子 (広島)
- 林 晴美 (広島玉美)
- 増村 春男 (広島中)
- 下谷 勲 荘 (広島東)
- 多田 野良治 (広島東)
- 片岡 敏 碩 (広島南)
- 和田 弘 (鯉城)
- 伊丹 克己 (岡山)
- 伊野 淑子 (山口)
- 北村 成子 (伊予道後)
- 渡部 正男 (東京)

小咄

並河 健蔵

殿さまと湖 その I

昔むかし、湖のほとりに小さなお城がありましてナ、戦さのない時代でございましたから、殿さまは毎日のように天主閣に上って四季折々の湖を眺めるのが、お好きでございました。

殿さまが、湖を眺めるのがお好きじゃと、城下の人々に知れ渡りますと、それが噂を呼んで、いつの間にか殿さまは湖でとれる魚などが大好きなそうじゃと、町の噂が広がってきたのでございます。そうする内に、漁師たちが毎朝のように、代わる代わる参上して、新鮮な獲物を献上するのが習わしになりました。

殿さまも殊の外お喜びになつて、漁師たちがやってくるのを、楽しみに待つておられるようになりました。

○鴨の巻
歳の瀬も迫つた頃のことでございます。侍 殿、申し上げます。小男の漁師が勇んで参りましたが、殿 苦しゅうない。

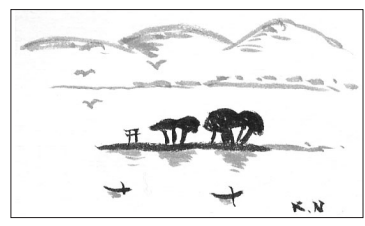
○鯉の巻
この頃は、毎朝のように獲物を献上すること、ひきもきらず。殿さまは、これらの生きた獲物が生き長らえるように、城内の森の中に二つの池を掘らせました。上の池、下の池といいますが、殿さまの折々のお計らいで、どちらかの池に放されたことになったのでございます。そんなある日のこと、赤銅色の肌をした逞しい漁師が、前後に大きな魚籠を下げながら、いかにも手柄を立てたかのように威勢よくやって参りました。

殿「おー。よく来てくれた。大層重そうだが、何を獲えたのじゃ。」

漁師は「大きな真鯉を二匹とらえました。夫婦にござります。」

「どっちの籠にも、湖の主のような大きく、太った真鯉が、目を白黒させながら、口をパクパクあけて、喘いでおります。」

殿は、すぐにお付の侍に言いつけて、夫婦の鯉を、森の中の池に放してやるようにおっしゃいました。お付の侍は、その漁師を促して、池の方へ向いましたが、やがて引き返すなり「殿、上の池、下の池のどちらに放ちましようか」と伺いました。殿は「どっちの池でもかまうまい。よきに計らえ」と、そつげなくおっしゃいましたので、侍は途方に暮れてしまいました。殿さまは大きな声でおっしゃいました。「忝に上下はないであろうに！」



(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

大小鼓製造卸販売 杉本 鼓店

住所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

民謡民舞島根交流大会

平成20年10月5日に松江市にある島根県民会館にて「民謡民舞島根交流大会」が開催されました。その中で圧巻だったのは、オープニングの三味線合奏での安来節、もの凄い迫力があり、お客様からは割れんばかりの拍手喝采でした。
なお当日は1,600ある席がほぼ満席で大変盛況に終わりました。



民謡民舞島根交流大会を終えて



絃 准名人
五代目
富田 徳之助
(智頭支部)

この度、オープニングに安来節の三味線合奏をする運びとなりました。四十四名に依ります合奏が実現致しました事は、単衣に皆様のお陰と深く感謝、御礼を申し上げます。
本番の演奏では、全員が集中し、「精一杯頑張ろう」という意識の中で、演奏する心が音や気持ちの一つにし、素晴らしい三味線合奏となりました。

観客の皆さんからは、割れんばかりの拍手や声援を沢山頂き、感動と喜びを感じながら、若かりし頃の松江の思い出が走馬灯のように蘇って参りました。
先人方からの文化の尊さを学び、その小さな一歩を守り、そしてそれを育てて後につないでいく。
伝統文化は、常に生き続けていると、私は思います。
師匠への感謝と敬う気持ちを忘れる事なく、精進を重ねて参りたいと思います。

支部近況



大利根支部長
玉川 隆正

私共の大利根支部は、昨年の十一月十六日に発足致しました一番新しく、そして関東で四番目に出来た支部でございます。早いもので、もう一年が経ちましたが、この間支部設立に伴う諸問題もあり、何かと気忙しく過ぎましたが、これらも解決し、現在は保存会の活動に専念出来る様になりました。
大利根支部のエリアは支部名からも推察頂けると思いますが、関東平野を流れる利根川の流域にあたる東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木の都五県にまたがり、

また関東より少し北に離れた宮城県仙台市にも及んでいます。地域が広い事もあり、各地域の八ヶ所に部会を設け日常の活動はその部会長を中心に行き、また発表会、研修会等の全体行事は部会長を含めた支部役員が全会員対象に行っております。会員数も発足時は九十七名でしたが、お陰様で順調に増加致しまして現在は百十三名になり喜ばしく思っております。何しろ新支部の為、本部及び支部開催の諸行事が全て初めての事であり、戸惑う事もありましたが本部及び関係各位のご協力もあり、何とかやってこられた事に感謝する次第であります。これからは支部内におきましては、本部指導部の先生方のお力をお借りして会員の実力向上をはかる事を目標にし、そして運営面では先輩支部の良い所を見習い、支部ひいては保存会の発展に寄与致す所存でございます。

支部情報

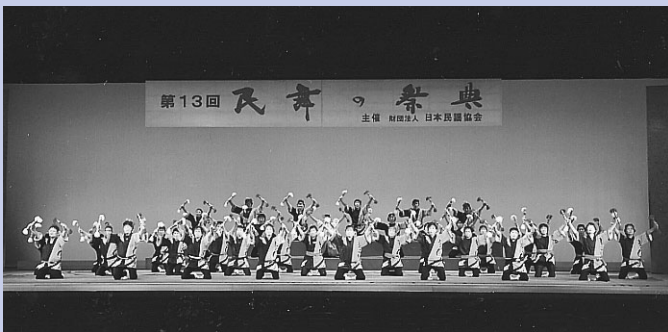
国立劇場の大舞台に紅白の花が咲く



関東支部長
若岑 礼

浅草の木馬亭は、初代渡部お糸が大正七年より安来節の常設の小屋として、この舞台で活躍された事は有名である。
関東支部はこの小屋で安来節保存会の会員増強を図る為、「安来節&津軽三味線」というタイトルで毎月一回公演を行っている。ここで銭太鼓とどじょう揃い踊りの体験コーナーを実施して大変な人気を呼び、このコーナーの参加者達に声を掛けた所、その中の三十七名が平成二十年九月五日、国立劇場の大舞台で出演する事に決まった。財団法人日本民謡協会「第十三回民舞の祭典」と銘打って、協会の参与である若岑

緑峰が安来節保存会関東支部として参加、ダイレクターとしても采配を振るい、安来節を中心とした民謡メドレーでまとめた。観客は超満員の盛況で割れんばかりの大拍手が起り、歓声が湧き上がったのでこんな



なに反響が大きいとは思っても見なかった。そして首都圏にもっともっと銭太鼓の教室を開設してほしいとの声が上がります、それに向かつて準備をしている所である。
銭太鼓というものは安来節以外のどんな曲でも打つ事が出来るので、若者男女を問わず楽しみながら地域の催し物の活動に役立つという事もあって、銭太鼓のファンが大勢増える可能性は大である。関東支部としてはそのファンの中から安来節保存会に入会していただくように努力して安来節銭太鼓の魅力を発揮し、保存会の会員増強に寄与出来るよう頑張る所存である。

とき 平成20年12月22日 (12時開演)
ところ 浅草木馬亭
〒111-0032 東京都台東区浅草2-7-5
TEL・FAX 03-3844-6293
入場料 ¥2,500 前売り¥2,000
主催 安来節保存会関東支部
(支部長 若岑 礼)
協力 財団法人日本民謡協会参与
高橋祐次郎 (津軽三味線家元)
財団法人日本民謡協会参与
若岑緑峰 (京都若岑流家元)

浅草名物
民謡佐藤松子流教室
第一・第三金曜日二時
安来節&津軽三味線



民謡 佐藤松子流師範
佐藤 松綾
安来節保存会
関東支部
支部長 若岑 礼

お問い合わせ 安来節保存会関東支部事務局 (浅草道場)
〒111-0032 東京都台東区浅草1丁目18-3 エンドウビル3F TEL・FAX 03-3847-0215

安来節保存会 大江戸支部

唄・絃・鼓・どじょう揃い踊り・銭太鼓
ご一緒に楽しみませんか

江東・多摩・柏・大田・世田谷教室
代表、支部長 森 脇 忍

〒135-0043 江東区塩浜 1-1-13-1317
TEL 03-3615-0888

